

ふじのくにブランド

FUJINOKUNI Brand



花こち



十分な香り発揚のためには芽の熟度が重要になるため、生育状態を日々確認して原料から厳選している。

茶どころ復活を
リードする
第三の煎茶



見た目は緑茶そのままだが、花や果実のような甘い香りがふんわりと広がる。スッキリとした飲み口で、やさしい甘みを感じられるお茶だ。

香り緑茶の製造専用開発された香り発揚機(香り揺青機)を使用。数値化された研究データと茶師の経験を組み合わせ、安定的に香りを発揚させる。



新感覚なテイストやピンク色が基調のパッケージは若年層にも好評でプチギフトに選ばれることもしばしば。



国内外に誇る価値を有する静岡県の食材。

今回は、香りという付加価値で緑茶の可能性を切り拓く香り緑茶「花こち」を紹介する。

旨味成分の多寡で価値が決まる緑茶。本県の茶産業は旨味創出の歴史とともにあるが、近年の茶況は思わしくない。そんな中、第三の煎茶と呼ばれる商品が話題を呼んでいる。茶葉に含まれる花のような香り成分を特殊な製法で引き出した「花こち」だ。ふわりと漂う甘い香りの後に続く、軽やかな旨味と澄んだ渋みは、新しい緑茶の価値基準を思わせ、斬新でありながら、どこか懐かしい風味も放つ。

花様の香りは茶葉由来のもの。特殊な香气発揚技術が奏功し、年間を通じて品質が安定、抽出温度で風味が左右されにくい。つまり、いつ、誰が淹れても香り高い緑茶が楽しめる。製造・販売元の勝間田開拓茶農業協同組合によれば、和菓子だけでなくチョコレートや乳製品と合わせてもおいしいという。

花のような香り、緑茶本来の味わい、手軽な抽出方法、お茶請けの多様性など、多くの魅力を持つ花こちは、若い世代の“お茶離れ”を解消する力を持つ。香り緑茶という新ジャンルは、茶どころ復活の希望の光だ。

お問い合わせ
勝間田開拓茶農業協同組合
<https://kaori-ryokucha.com>
0548-27-2151

読者の声



第47号
アンケートより

天守君山願成就院に行ってみたくりました。五体の仏様をこの目で見てみたいです。

島田市
S.Sさん

タイムリーな地域の情報、すばらしい静岡社会健康医学大学院大学や特産品の詳細は興味深かった。

御殿場市
S.Tさん

マスメディアに取り上げられない情報があって楽しい。静岡に親しみが湧いてきます。

東京都
E.Tさん

対談がすばらしい。哲学的な未来志向を感じました。じっくりと考えさせられました。

牧之原市
H.Tさん